



▲ ロワール古き街並



▲ ロンドン暮色

私の写生地

ヨーロッパの古城と教会

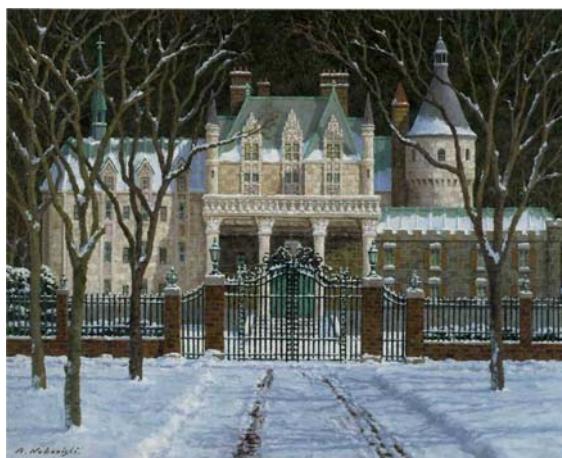
会員 中西 敦

勤めの関係で通算11年を海外で過ごしました。その間に、各国を巡つて描き溜めたスケッチ帳は今でも私の大切な宝物です。中でも3年間住したロンドンからはヨーロッパのどこにでも1～2時間で行けるので、週末を利用して、季節に合わせて気軽にスケッチ旅行ができました。もちろん風景だけでなく、美術館、旬のグルメ、サッカー、オペラなどスケッチの傍らの楽しみもたくさんありますので、家族が退屈しないばかりか、自分自身も絵を後回しにする時があるほどで、誘惑と闘つての時間配分もまたスケッチ旅行の楽しみのひとつです。

これまで大作のモチーフに選んだ場所は、イギリスではロンドン塔、タワー・ブリッジ、

カンタベリー大聖堂など、フランスでは古城巡りで人気のロワール渓谷から、ブロワ城、ユッセ城、アゼルリドー城などを主題にシリーズで描いています。ほかにも百塔の街プラハ、ドナウの真珠ブルベスト、寂寞感漂うアイルランドの修道院などどの地も魅力溢れる題材の宝庫です。ヨーロッパは緯度が高く、太陽が低いので、午後になつても朝のような青い光線が注ぎ色彩が爽やかです。また空気が乾燥していく霞ます遠くまでよく見えますので、描き込みにも適しています。湿気に包まれた日本の風景との違いが無意識のう

カントベリー大聖堂など、フランスでは古城巡りで人気のロワール渓谷から、ブロワ城、ユッセ城、アゼルリドー城などを主題にシリーズで描いています。ほかにも百塔の街プラハ、ドナウの真珠ブルベスト、寂寞感漂うアイルランドの修道院などどの地も魅力溢れる題材の宝庫です。ヨーロッパは緯度が高く、太陽が低いので、午後になつても朝のような青い光線が注ぎ色彩が爽やかです。また空気が乾燥していく霞ます遠くまでよく見えますので、描き込みにも適しています。湿気に包まれた日本の風景との違いが無意識のう



▲ 騎士達の栄光



▲ カンタベリー巡礼

ちにもスケッチ帳に刻まれていきます。

特にヨーロッパの冬は、その風景

が一層の輝きを増して、私の最も好きな季節です。凜とした冷氣の中、低い曇空、セピア色の木々と冬でも

みずみずしい緑の芝をバッ

クに歴史ある石積みや風化した煉瓦造りと伝統的な渋い色合いの構造物が見事に

一体化しています。

スケッチポイントは立派な古城や教会ばかりではありません。

国境を一步越え

ると風景は一変します。家並み、煉瓦堀、樹木、路面電車、町の構造物（街灯、門扉、看板、信号など）が

それぞれ街ごとに特徴がで

ており、こうした脇役達も

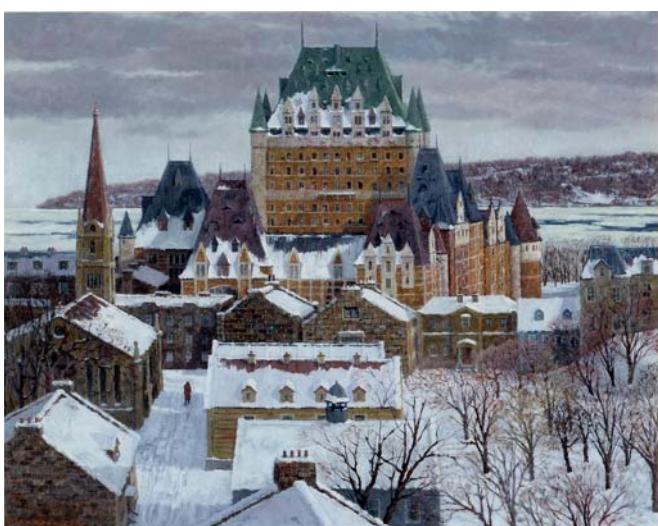
絵の雰囲気を作り出すのに

重要な役割を演じています。

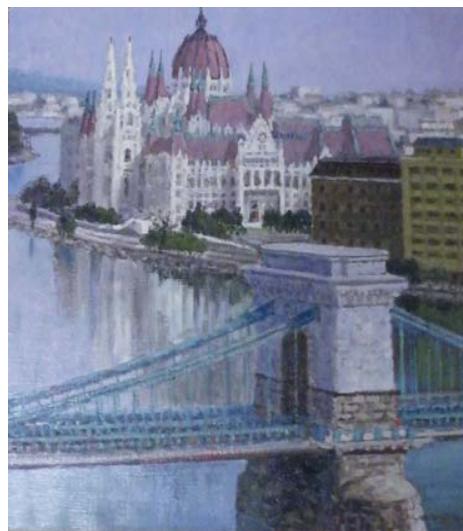
街の色、空気、音までも表現できたらとワクワクしながらスケッチします。

制作の過程では、敢えて他の街の脇役を組み合わせて主題を引き立てることもありますので、これら

よくありますので、これら脇役の街頭取材も貴重な資料になります。近年、取り組んでいる「騎士達シリーズ」では、ロワールの古城



▲ 冬のケベック



▲ ドナウの朝

最近ではボーランドを訪れ、南シレジア地方の古城や教会をたくさん仕入れてきました。日本からヨーロッパへ行くのは少し遠いですが、時間を見みつけてまた出かけて行きました。日本か

の時期を選んでカナダのケベックまで行つたこともありました。激痛といえるほどの寒さでしたがそれも忘れるほどたくさんの感動する風景に

で行つたものもありました。激痛といえるほどの寒さでしたがそれも忘れるほどたくさんの感動する風景に

時計をみると数時間が経過しており、時を忘れて絵に没頭できた自分に満足する、これこそ私にとって至福の瞬間なのです。



▲ 騎士達の追憶